

# 令和元年度 安城市初期集中支援チーム活動状況 [平成31年4月～令和2年3月末]

安城市認知症初期集中支援チーム

川畑 信也 (医師)

横山 朋恵 (看護師) 熊崎 知帆 (看護師)

村瀬 清美 (看護師) 森 良樹 (社会福祉士)

神田 太一 (社会福祉士・作業療法士)

竹村 真 (臨床心理師)



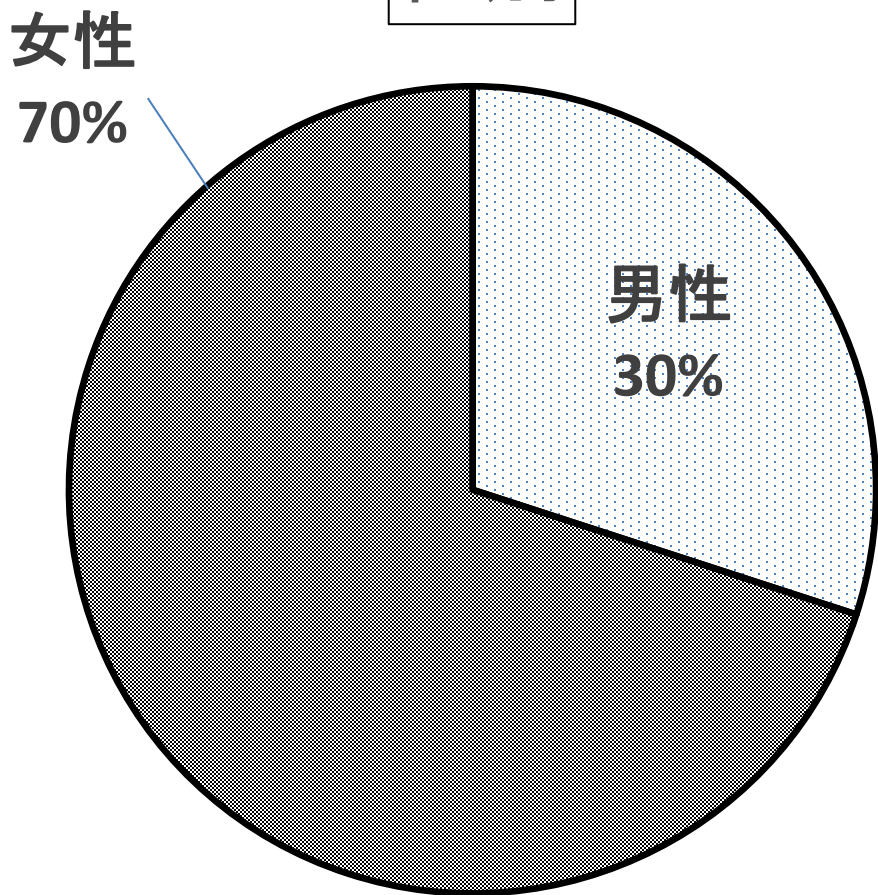
# 令和元年度 安城市初期集中支援チーム実績

[平成31年4月～令和2年3月末]

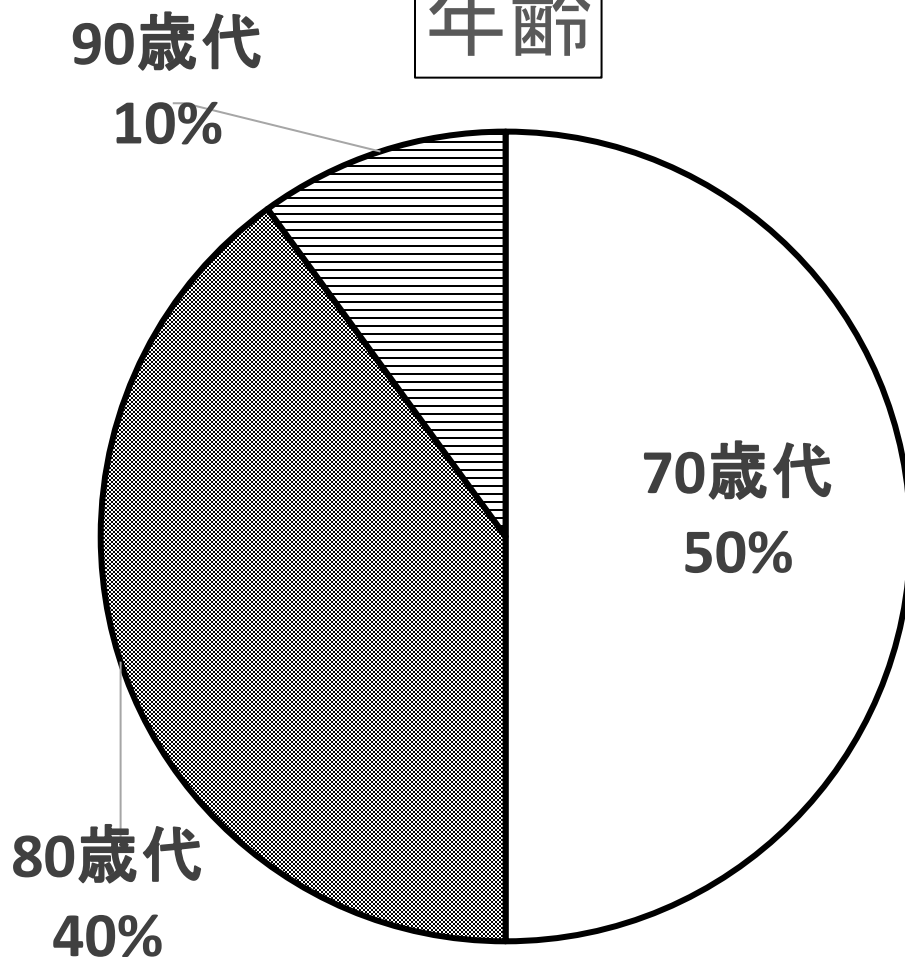
支援開始ケース数	10件
前年度からの引継ぎ	11件
支援終結ケース数	9件
訪問回数	55回
電話相談	262回
会議出席	16件
研修会参加・開催	6件
地域活動等参加	5件

# 安城市認知症初期集中支援事業実施結果

性別



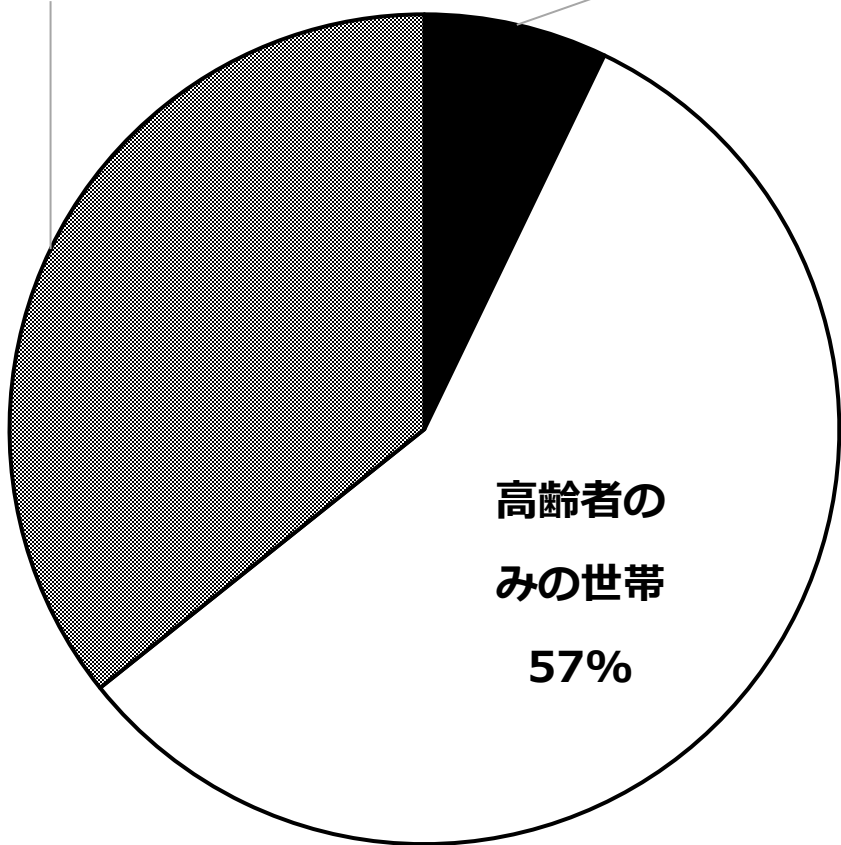
年齢



# 安城市認知症初期集中支援事業実施結果

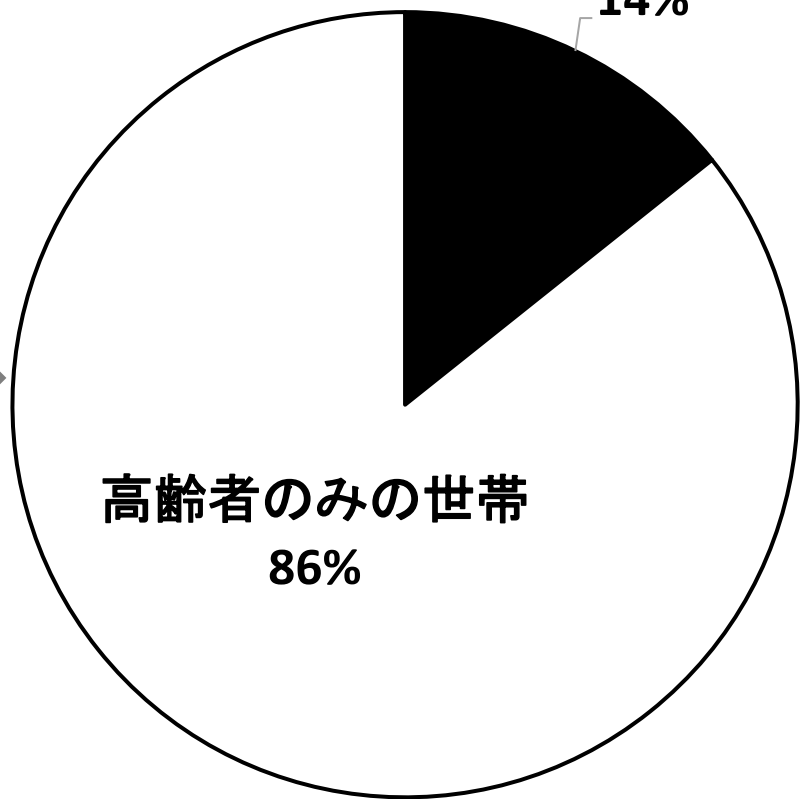
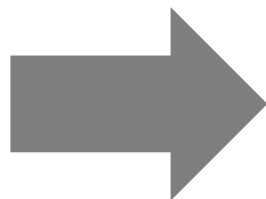
## 世帯構成

同居 36%      独居 7%



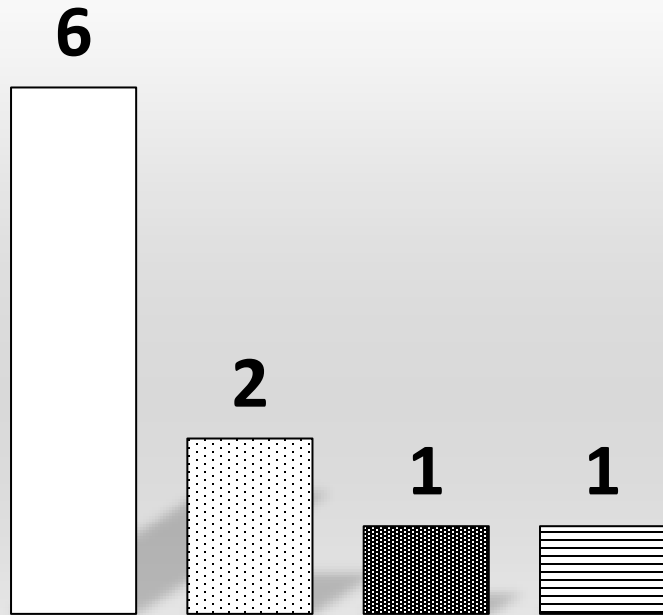
## 日中の世帯構成

独居 14%



# 安城市認知症初期集中支援事業実施結果

## 把握ルート



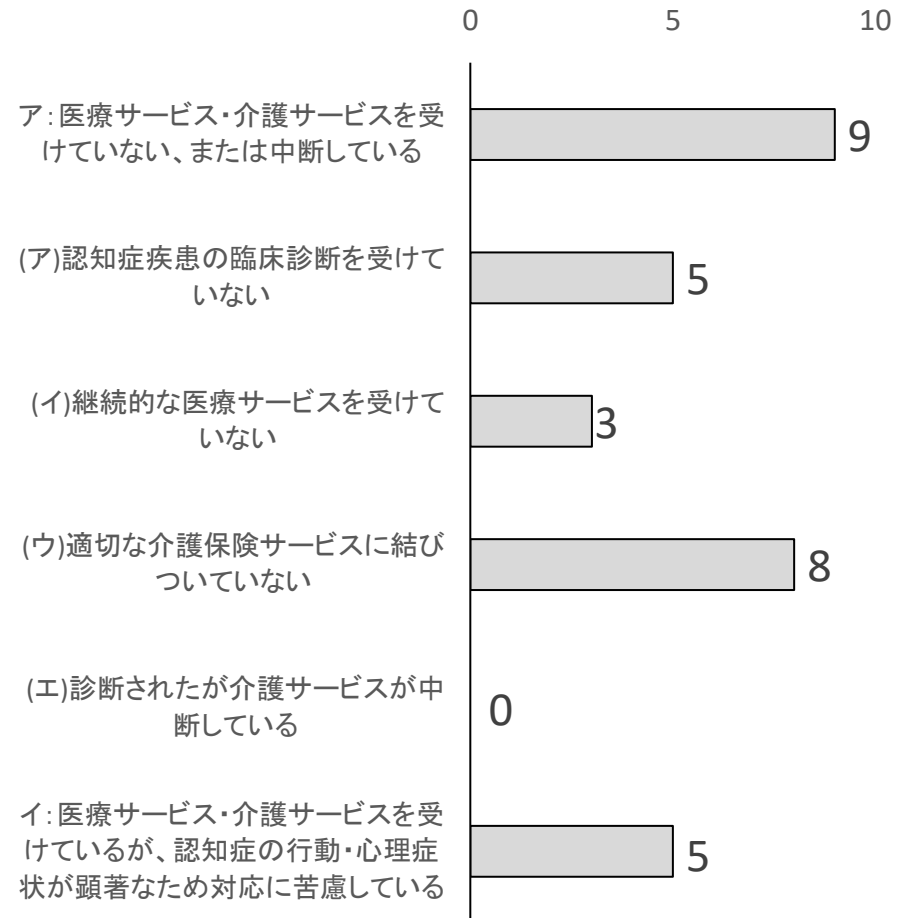
地域包括支援センター

家族

ケアマネージャー

認知症患者医療センター

## 相談内訳



## 把握～初回訪問までの日数

平均：11.2日

最短：2日

最長：25日

## 介入～終結・引継ぎまでの日数

平均：387日

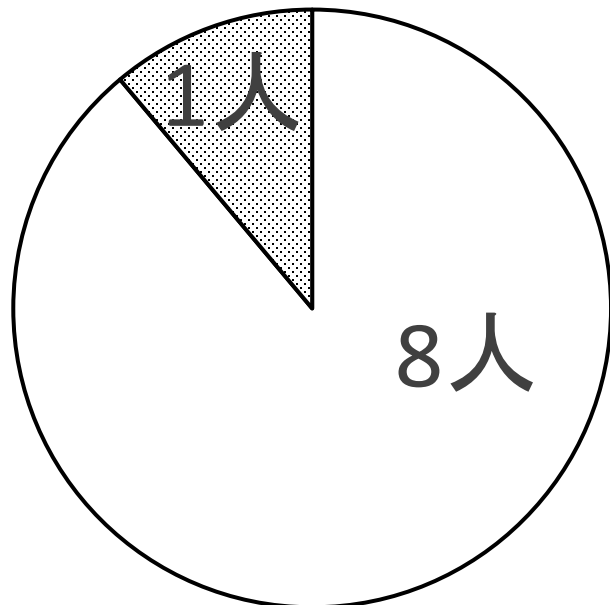
最短：144日

最長：816日

# チーム介入後の診断の有無

## 開始時

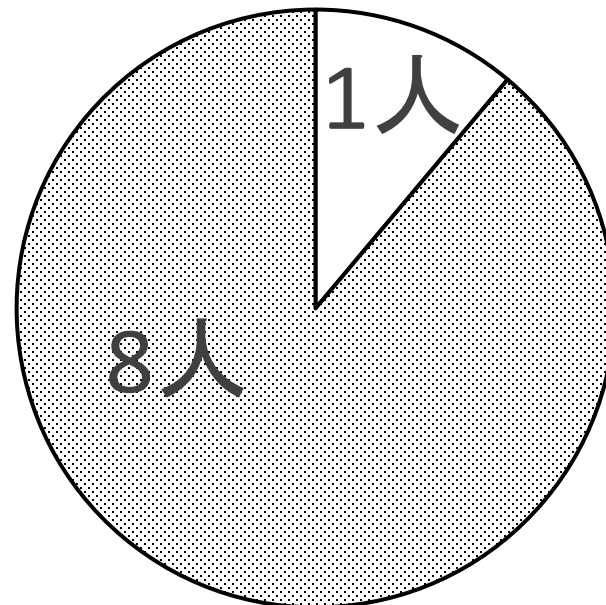
診断の有無



□ 診断なし ■ 診断あり

## 終結時

診断の有無

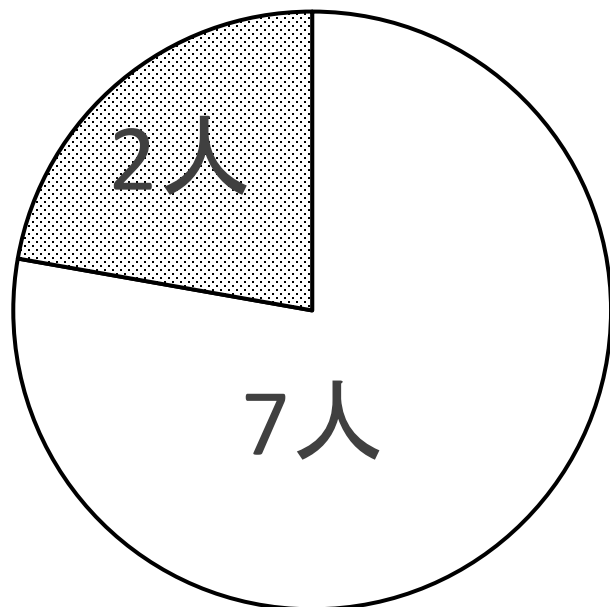


□ 診断なし ■ 診断あり

# チーム介入後の介護認定の有無

## 開始時

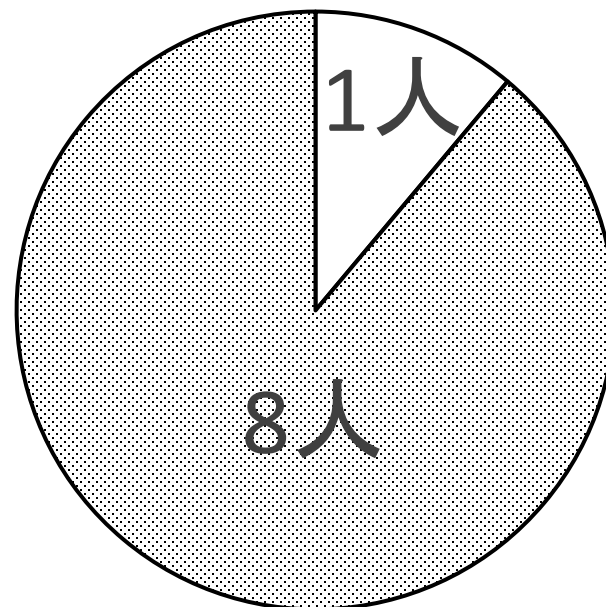
認定の有無



□ 認定なし ■ 認定あり

## 終結時

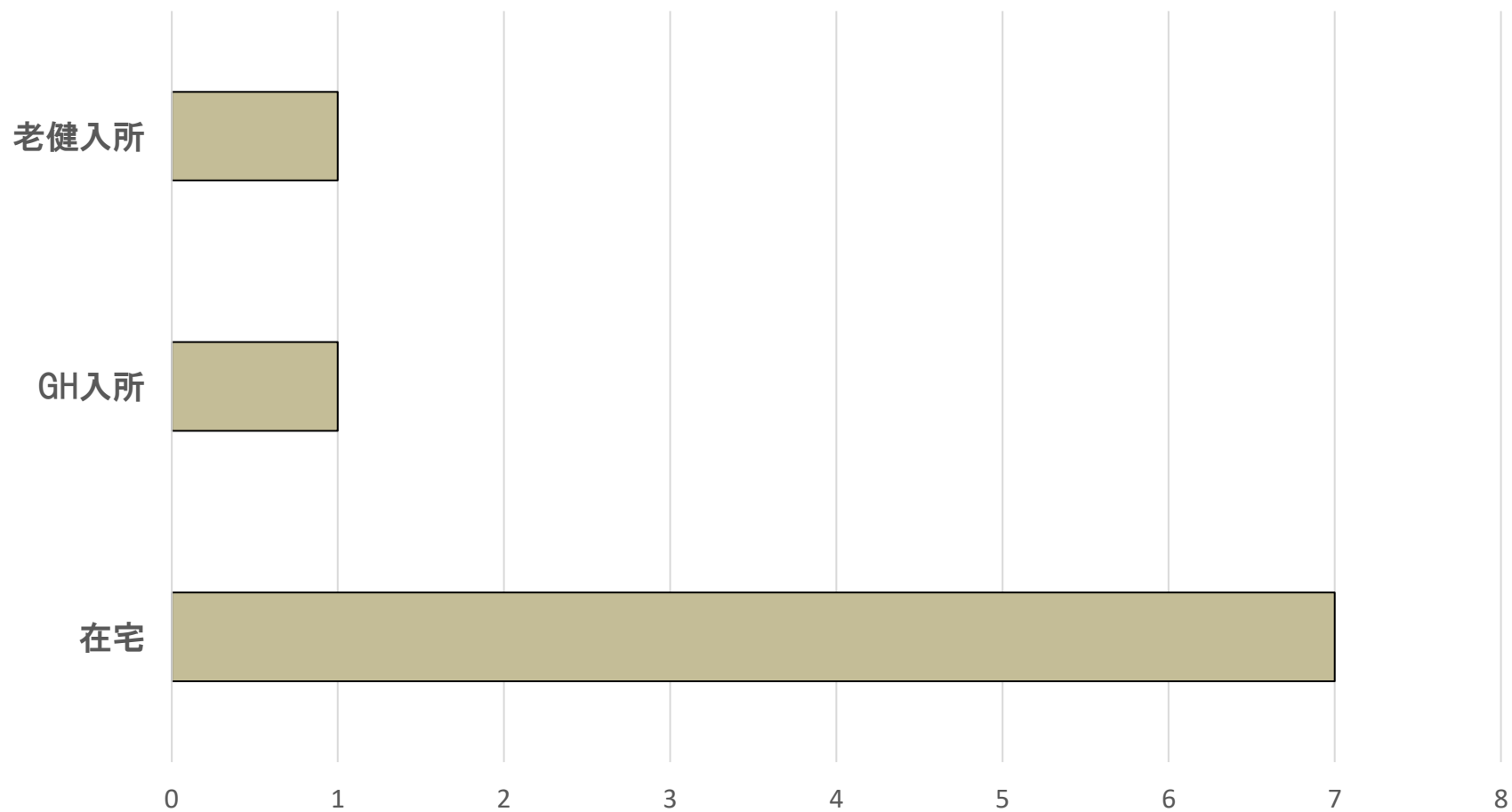
認定の有無



□ 認定なし ■ 認定あり



# 支援終了後の生活の場



# 支援対象者チェックシート

記入日 年 月 日

フリガナ		性別	男・女
対象者氏名			
生年月日	年 月 日( 歳)	住所	

## ◆支援対象者判断シート

1 年齢が40歳以上である	はい	いいえ
2 在宅で生活している	はい	いいえ
3 認知症が疑われる又は認知症である	はい	いいえ

1~3のすべてが『はい』

2,3のうち1つでも『いいえ』

支援対象外  
(地域包括支援センターで対応)

4 医療サービス、介護サービスを受けていないまたは中断している	はい	いいえ
---------------------------------	----	-----

4が『はい』

4が『いいえ』  
→9へ

5 認知症疾患の臨床診断を受けていない	はい	いいえ
6 継続的な医療サービスを受けていない	はい	いいえ
7 適切な介護サービスに結び付いていない	はい	いいえ
8 (認知症)と診断されたが介護サービスが中断している	はい	いいえ
9 認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している	はい	いいえ

5~9のいずれかが『はい』

5~9のすべてが『いいえ』  
もしくは、4かつ9が『いいえ』

## ◆支援介入チェック(包括が関与して行ったものにチェックを入れる)

医療機関に相談	
受診に同行等、医療との連携を行う	
介護保険サービスに同行等、サービス利用調整を行う	
その他( )	

支援対象外  
(地域包括支援センターで対応)

10 支援介入後、5~9で『はい』の項目がすべて改善	はい	いいえ
----------------------------	----	-----

10が『はい』

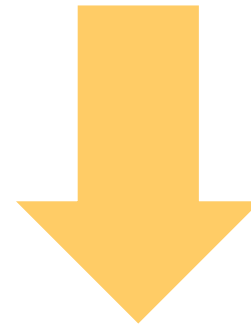
10が『いいえ』

★支援対象として依頼 (認知症初期集中支援依頼票と利用者基本情報提出)

# 支援対象者のチェックシートを活用

現在

1~9に該当する人の介入している

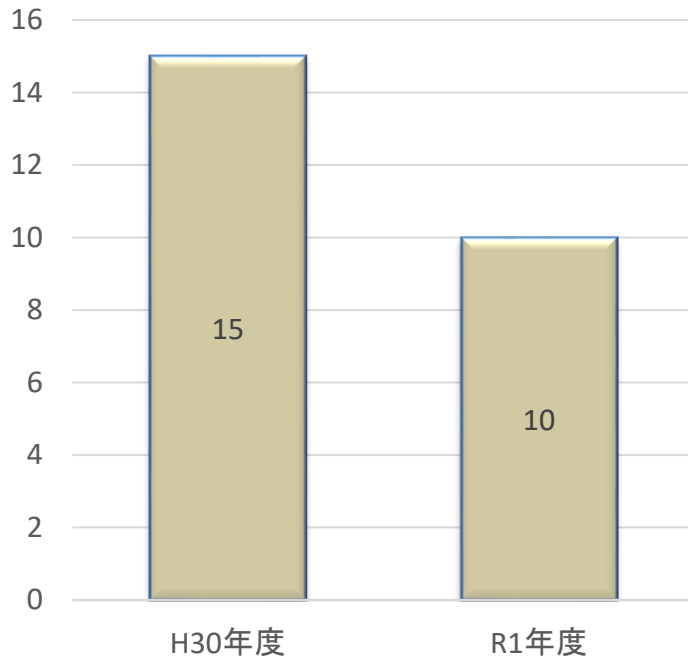


今後

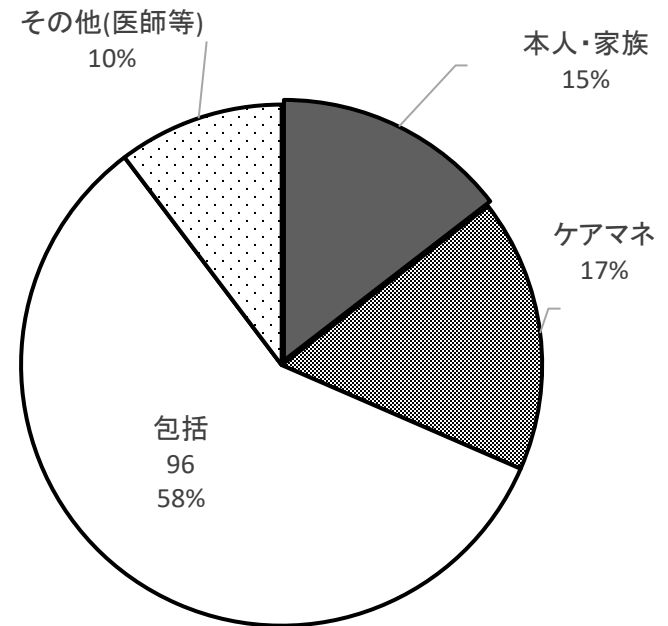
現在の課題への対策案として、支援介入チェック欄を追加し、ある程度方向性を検討したうえで支援を開始して介入・支援が困難な方に対し活動していく。

# スクリーニング開始後の変化

## 新規相談



## 電話連絡内訳



# 地域活動への参加

認知症何でも相談会



包括支援センターとの勉強会



# 地域活動への参加

児童クラブでの認知症  
サポーター養成講座に参加



行方不明高齢者搜索  
模擬訓練



# 安城市認知症初期集中支援チームの介入効果 まとめ

- ・ 支援期間は要したが、チームの介入により診断や介護認定を受け、本人の住み慣れた在宅での療養を送れている患者が約8割いる

- ・ スクリーニングを開始しチームの介入件数は減っている。

包括との勉強会を行い、それぞれの役割を活かす支援が行えるようになった

# チーム員活動で気をつけていること

- ・可能な範囲で訪問を行い直接お会いすることで具体的な状況を把握する
- ・本人の出来ることをたくさんみつける
- ・かかりつけ医へ直接訪問し生活状況の報告、チーム員での検討内容、今後の介入について協力を得る
- ・緊密な関係を築けるよう、外部で関係機関のスタッフを見かけたら積極的に声をかけ情報共有を行う

# 認知症初期集中支援チーム 今後の課題

- ・限られた職種間での情報共有となっており、支援をインフォーマルなもので、より患者の生活に寄り添ったものにするために更に多くの職種や協力機関（生活支援コーディネーター、在宅医療サポートセンターなど）の役割について学び輪を広げていく